

## 県外派遣報告書

審判員名	眞榮喜 工	所属	クラブ連盟
大会名	平成27年度 関東総合バスケットボール選手権大会		
期 間	平成27年11月21日(土)、22日(日)		
会 場	横浜文化体育館		

### スケジュール

期 日	内 容	場 所
11月20日(金)	審判会議・レクチャー	レストハウス平沼
11月21日(金)	男女1回戦	横濱文化体育館
11月22日(金)	男女準決・決勝	横濱文化体育館

### 会議 講義 内容

「カテゴリーの違いを判定するために」 伊藤 恒 氏

①瞬間的(接触を起こした瞬間)に判定したほうが良い場合と影響を親で判定したほうが良い場合。  
手を使って行う悪いコンタクト→瞬間的に。ただし、形だけでなく、被害者がいてこそそのファウル。  
胴体(トルソー)でのコンタクト→影響を見極めて、意図したプレイが妨げられたときに。

②質量(体重)、パワーの違いによって影響があらわれたもの。  
ex.)ガードがセンターにマッチアップしたとき。どう守るか。どう攻めるか。

③小さな接触でも大きな影響のあるもの。大きな接触でも影響が無いと判断した方が良いもの。  
ショットに対しての小さなコンタクト。肘から先のデリケートな部分へのコンタクト。

④ミニバスや中学(特に女子)のプレイを見極めることは難しい。  
身体の強さ、筋力によって影響の出方が異なる。

⑤プレイヤーのレベルが上がれば、ぎりぎりの接触を起こす。(オフェンス、ディフェンス問わず)プレイヤーもベンチも審判を試す。  
どこまでがノー・コールで、どこからがコールされるかの駆け引き。

⑥ギリギリのプレイを意識してできるのが良いプレイヤー。ギリギリのプレイに明確に線引き出来るのが良い審判。  
わかりづらい意図的なコンタクトへの判定。如何にグレーゾーンを小さくできるか。

以上を踏まえて、**プレイの質を見極める**ことが最も重要。

「カテゴリーの違うゲームをマネジメントするために」 細田 知宏 氏

- ①大会の位置づけ
- ・オールジャパン予選(チームの所属とは別カテゴリーのチームとの試合)
  - ・体格、技術の異なる選手同士がプレイする  
→このくらいやったらファウルという感覚の違う者同士のコンタクト
- ②競技規則の理解
- ・審判としての経験だけでなく、ルールの原理原則を改めて確認すること  
→バイオレーションは変わらないはず  
→リーガル・ガーディング・ポジション・・・相手に正対して・両足を床につけて  
シリンダー、OFとDFそれぞれの権利、スクリーン、リバウンド等コンタクト・プレイへの注意カ  
→「勝ち負け」は書かれていない  
ダブル・チームが、どうこうではなく、そのコンタクトが規則に照らしたときに正当か不当か。
- ③判定の根拠を深める
- ・正しい判定を、正しい位置で、正しいタイミングで、正しい人(プライマリー)が積み重ねること。
  - ・動き、ポジショニングの追及 **四原則のフル活用**
  - ・プレゼンテーション: 姿勢・走り方・振る舞い・ジェスチャー **常にみられている**
  - ・コミュニケーション: プレイヤーの言動に対してレフェリーがどのように感じているかを理解させる。  
「適宜なコミュニケーション(言葉掛け)が無用な反則を減らす」 **笛以外でのコントロール**
  - ・集中力と勇気→気づきの正確さと速さ・難しい判定を恐れぬ。

**「発展途上の自分に自信を持って、コートに立つこと！」**

実技				
担当試合	期 日	平成27年11月21日	男子	1回戦
	対戦カード	筑波大学(茨城) VS 富士通(神奈川)		副審
	相手審判	伊藤 恒 氏(指名)		
ミーティング内容		主任 茂泉 圭司 氏(神奈川)		
<p>試合全体として大きな問題が起こることはなかった。広く大きくプレイを捉えている中で、トレイル時に高すぎることもある。ハイポスト・フラッシュやウィークサイド・ドライブ、センターライン付近でのタクティカル・ファウル時など、距離を詰めてより良いスペースを求めてペネトレイトすること。アウト・オブ・バウンズでどちらのボールなのか、フリー・スローかスロー・インか、オフェンスとディフェンスどちらのファウルなのか等、皆が気になることは早く示すほうが良い。相手の責任プレイなのか、相手の目の前でも自分のスペースのプレイなのかの判断を明確にし、判定すること。</p>				
担当試合	期 日	平成27年11月22日	女子	決勝
	対戦カード	松蔭大学 VS 日本女子体育大学		U2
	相手審判	R:渡邊 整 氏(栃木) U1:二宮 隆二 氏(神奈川)		
ミーティング内容		主任 小坂井 郁子 氏(神奈川)		
<p>一試合通して、三者がそれぞれの責任エリア、責任プレイを把握・判定していて問題もなく良い試合であった。その中で、トレイルのU1とセンターのU2の間でのオフボール・コンタクトに関して、リードのRからファウルをコールされるケースがあった。責任エリアの重なる部分でのプレイに対してどのように捉え、誰がプライマリーとなるのか、理解を深めることが必要。個人としては、取り上げたファウルの中で、接触の事実と責任はあるがこのレベルのプレイヤーに果たして取り上げなければならない程の影響があったかどうか、より見極めが求められる。</p>				
全体の感想				
<p>各都県、全カテゴリーの代表として、全日本選手権をかけての大会ということで、非常にハイレベルな大会であった。今回、初めて関東総合バスケットボール選手権大会へ派遣していただき、別カテゴリー同士の試合の難しさ、レベルの高い試合において、本当に必要な笛をどのタイミングで入れるかの難しさを痛感した。ファウルの起こりそうな場所へ足を運んでの抑止力も重要だが、見て知っていても笛として表さなければ、プレイヤーにとってその接触はリーガルなものだと伝わる。いつ、どこで、どのように示し伝えるか。抑揚も含めて今後の課題である。</p> <p>この度、神奈川県協会の方には細部にわたるまで御配慮頂き本当にお世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。地元、所属を大事に今後も精進して参りますので、今後も御指導の程、宜しくお願い致します。</p>				